

地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

平成29年10月発行 NO-62

地域リハ支援センター

「神奈川県地域リハビリテーション連携指針」の改定

神奈川県リハビリテーション協議会は、地域におけるリハビリテーションの提供体制の整備に係る課題と今後の取組みの方向性を示し、関係機関の役割と連携方策のあり方を明らかにするため、平成14年5月に神奈川県地域リハビリテーション連携指針を策定しました。

策定後15年が経過し、地域包括ケア体制の構築及び医療・介護の連携の必要性の議論が進み、障害者自立支援法から障害者総合支援法への移行、平成27年4月の介護保険制度改正によるリハビリテーションの位置づけの強化など地域リハビリテーションを取り巻く環境も変化しています。指針の改定においては、このような環境の変化に対応するため、リハビリテーションの対象を高齢者、障害者といった分け方だけで捉えるのではなく、子供や成人・高齢者とその家族とすべての人を対象にし、各個人のライフステージに沿って必要な支援が受けられるよう地域リハビリテーションの方向性を改めて示しています。

神奈川県リハビリテーション支援センターの役割も明確化され、より一層地域リハビリテーションの推進を働きかけてまいります。

指針の内容は「神奈川県地域リハビリテーション連携指針改定版」で検索してください。(泉 忠彦)

※引用：神奈川県地域リハビリテーション連携指針、神奈川県リハビリテーション協議会 安藤徳彦

地域リハ推進

福祉機器体験会&セミナー開催！

～子どもたちのこれからの生活を豊かにするために～



8月30日(水)、茅ヶ崎養護学校で福祉用具体験会ならびに教員対象にiPad活用術セミナーを開催しました。午前10時から午後1時まで12社に協力して頂き、子供の成長に伴い必要となる、福祉用具や自助具の展示を行い、実際に体験して頂きました。児童やご家族、近隣の学校の教諭など83名の方にご来場いただき、各ブース盛況な様子でした。午後は、近年養護学校での学習で使用するためのiPadが準備されているということで、少しでも学習場面で有効に活用できるように、iPadに備わっているアシスティブタッチにつ

いての説明や実際に触りながら設定などの体験学習を行いました。参加は近隣の学校教諭を含む小・中・高の学校教諭24名でした。参加されて方からは「実際にiPadを使用しながら説明を受けられて機能について理解することが出来ました。」「こういう機能があることが知れてよかった。」などの感想が聞かれ、今後はどんな児童にどのように活用ができるかを具体的に考える場が設定できると、より学習の場で身近な物になり、授業の幅が広がるのではないかと感じました。(一木 愛子)



学問の秋！ 豪華講師による

リハビリテーション専門研修

リハビリテーション、生活でとても大切な「姿勢」について、長らく指導的立場で活躍されている北海道のクラーク病院医師桂律也氏と高知県の理学療法士下元佳子氏を講師にお招きしまして学びました。

片麻痺のシーティング(9月23日開催) 講師:桂律也



脳卒中片麻痺は片側の手足が麻痺するだけではなく、多くの方は体幹の機能にも問題を抱えています。車椅子による骨盤を中心とした適切な支えによって、潜在的な能力を引き出すことができます。モジュラー型車椅子を使った実習で、適合の基本と応用を学びました。

(実技指導)

神奈川リハビリテーション病院 理学療法科 岡野朋恵
リハビリテーション工学科 沖川悦三 辻村和見
松田健太 村田知之

地域リハ支援センター 平田学

からだにやさしいポジショニング入門(10月3日開催) 講師:下元佳子

日々の適切なポジショニングでは褥瘡予防だけではなく、拘縮や疼痛の改善や予防が可能です。講師は姿勢のアセスメントを「重さの流れ」という視点で捉え、支える場所と動きを出す場所(関節)を分けてポジショニングを進めます。臥位と座位を中心としたポジショニング実習を通じて理解を深めました。

(実技指導)

神奈川リハビリテーション病院

理学療法科 川瀬麻理 作業療法科 柏木和人



その他の研修

住宅改造・改修セミナー(横浜 YMCA 学院専門学校)、視覚障害のある方への支援(神奈川リハ病院)、身体機能障害の理解(アミュー厚木)にも多くの方が受講されました。ありがとうございました。

(平田学)

今後の研修予定

申し込み・お問い合わせはこちらから

地域リハ支援センター



高次脳機能障害セミナー	実務編	12月9日(土)	医療職・福祉職など	厚木シティプラザ
高次脳機能障害セミナー	就労支援編	1月20日(土)	医療職・福祉職など	厚木シティプラザ
かながわりハビリテーション・ケアフォーラム		2月3日(土)	限定なし	横浜情報文化センター
義肢装具セミナー		2月17日(土)	PO・OT・一般・エンジニアなど	神奈川リハ病院

リハ専門相談 事例紹介シリーズ⑥

電話相談と訪問支援から見えてくるもの

リハビリテーション専門相談は、主に「居宅介護支援事業所」や「障害者施設」「障害者相談支援事業所」等の機関からいただいています。相談内容は、疾病の進行や加齢に伴う機能低下や身体状況の変化に応じた生活場面での住環境整備や補装具・福祉機器導入、訓練プログラムに関するものが多く、電話や実際に訪問して助言等を行っています。これらの相談から見えてきた課題と当センターが担っていくべきいくつかの役割があります。

- ① まず、脳性まひや神経・筋疾患の方について、病状の進行や加齢に伴う機能低下への対応です。今まで出来ていた活動が出来なくなる、姿勢の保持が難しくなることは、生活に支障を来すだけではなく、ご本人や家族も受け入れに時間を要します。ただ、残された機能を生かしつつ、生活の質の向上を目指すには、適切な身体機能評価を行い、現状に適した補装具利用やポジショニング、介助方法の工夫や福祉機器の導入が考えられます。
- ② 上記に類似していますが、知的障害者の加齢による身体機能低下への対応もあります。知的障害者は40代後半から身体機能が低下する方が多く、それらより活動量や姿勢、嚥下機能等が連鎖的に低下していく場合があります。よって、加齢に伴う心身状況にあった日中活動の位置づけが要されますが、自身の状態を適切に伝えることが難しく、支援者側の助言等を理解したり、ならったりすることもままならない状態ではなかなかうまくいかないようです。そこで、生活状況や身体機能の評価をふまえた生活環境の再構築（椅子やテーブルの高さの調整等）や、生活の中で無理なく取り入れられそうな運動やストレッチ等を検討します。
- ③ さらに、難病の方へのコミュニケーション支援があります。障害像や身体機能、病状の進行だけではなく、本人や家族の生活ニーズ、元々得意としていた能力（例えばPC操作）等を考慮しつつ、コミュニケーション機器や入力機器等の周辺機器の選定や調整を行っています。手続きに時間がかかりすぎると進行が早くて機器の利用が間に合わないこともあります。その反面、病状の進行等に関する知識や情報を有している支援者側が、本人や家族の状況の受け止めや思い、ニーズよりも先回りしすぎた支援をすることで、準備した機器の使用を中断してしまう例などもありますので、ご本人・家族の意向と適切なタイミングを見計らう必要があります。

地域生活の中では、通所機関や訪問介護、訪問リハ等の方が長期間の支援を行っておいでですが、リハ職が不在な機関やリハ職の方においても、身体機能面の把握や理解、本人の状態と福祉機器のマッチングに不安な面をお持ちだと思います。そのような局面で、当支援センターのリハ専門相談を活用いただき、地域支援機関の皆様とともに支援方法や環境調整を検討していきたいと考えています。（瀧澤 学）

平成 29 年度 4 月～10 月リハ専門相談実績(10/15 時点)

4～10月(10/15 時点)	新規	継続	電話	訪問	来所
脳性麻痺	10	14	14	5	4
神経・筋疾患	13	23	23	7	4
脳血管障害	16	8	23	1	0
脊髄疾患	8	11	13	4	1
脊髄損傷	3	1	2	1	1
骨関節疾患	5	2	7	0	0
後天性脳損傷(除CVA)	6	7	11	2	0
知的障害	10	14	15	7	1
内部疾患	0	0	0	0	0
その他(切断・加齢等)	10	1	9	1	1
合計	81	81	117	28	12

4～10月(10/15 時点)	訪問	来所
補装具・福祉用具機器	13	6
環境整備	2	2
身体機能評価	7	0
ADL指導	0	0
訓練プログラム指導	1	1
介護指導	2	1
支援内容検討	3	1
医療	0	0
その他	0	1
合計	28	12

協働事業室の「脳外傷友の会 ナナ」 設立20周年記念講習会



協働事業室は神奈川県総合リハ事業団（以下「事業団」）が障害者支援を推進していく上で、当事者・家族会の方々が障害をお持ちの方とのピアサポートを担っていただき、事業団と共に協働して支援を推進していくことをねらいとして平成14年5月に事業団に設置されました。脳外傷友の会ナナとは、協働事業室で高次脳機能障害支援を共に推進してきました。

さて、脳外傷友の会ナナは設立20周年を迎え、10月9日「高次脳機能障害への支援 ―これまで～これから―」をテーマに平成29年度脳外傷リハビリテーション講習会を開催しました。講習会の前半では以前神奈川リハ病院に勤務されていた、東京慈恵会医科大学付属第三病院の渡邊修先生と元高次脳機能障害支援コーディネーターの地域リハ支援センター職員の瀧澤学の2つの講演がありました。

後半は渡辺先生、やはり以前神奈川リハ病院に勤務されていた橋本圭司先生をはじめとして、6名の方のシンポジウムが開催され、これからの高次脳機能障害支援について熱く議論されました。



また、設立記念式典では事業団笠井理事長から、全国の高次脳機能障害支援の推進を語るうえで、脳外傷友の会ナナは非常に大きな役割を担った団体であり、今後も協働事業室においてともに支援を進めていきたいという祝辞がありました。

当事業団は神奈川県の高次脳機能障害支援の拠点機関として、個別・地域支援、啓発の研修、地域のネットワークの構築などの推進を続けてまいります。

（泉 忠彦）

編集後記：12月から新病院での業務がスタートです。

二週連続の台風、木枯らし一号と目まぐるしく天候が変わり、体調を崩している方も多いのではないのでしょうか。いよいよ12月から新病院での業務がはじまります。引っ越しも差し迫ってきました。なんとか気合と気力で乗り切りましょう！！皆様も今年もあと2ヶ月お身体をご自愛され、乗り切りましょう！！（砂川久美子）

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
TEL:046-249-2602 FAX:046-249-2601